

・全体的に、前週に比べて都の定点当たり報告数は減少していますが、連休中の医療機関の休診が影響していると考えられます。

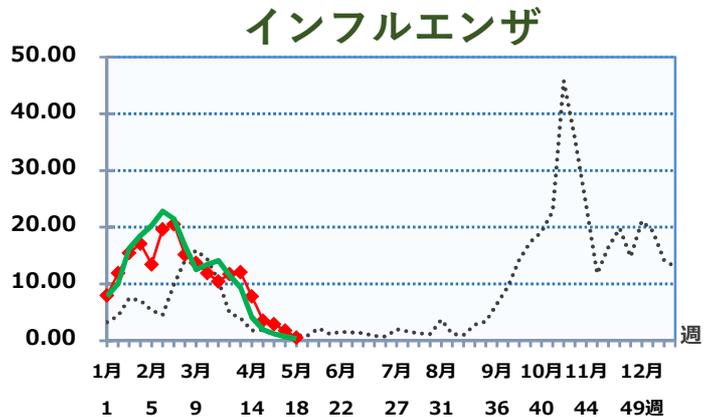
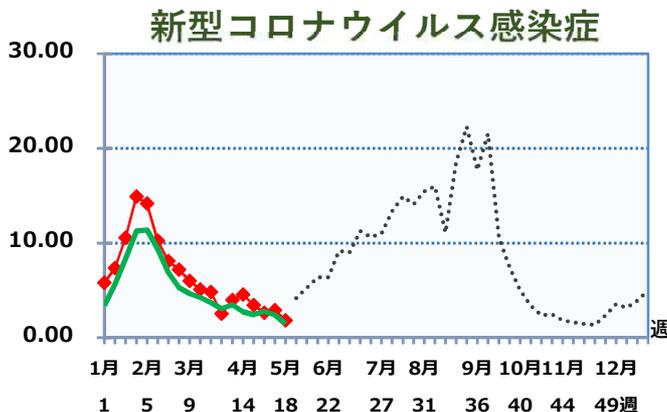
全数報告対象疾患

- (五類) 梅毒 1件 早期顕症梅毒Ⅱ期、性別は女性、年齢は40代、感染地は国内、推定感染経路は性的接触

定点把握対象疾患

定点医療機関当たり患者報告数
(定点医療機関からの患者報告数÷定点医療機関数)

..... 2023北区
—◆— 2024北区
—■— 2024東京都



Topics

冬だけではない？感染性胃腸炎に注意

感染性胃腸炎とは、主にウイルスなどの病原体（ノロウイルス、ロタウイルスなど）を原因とする胃腸炎の総称です。下痢やおう吐、腹痛、発熱などの症状を引き起こします。秋から冬にかけて流行しますが、昨年北区では5月から6月にかけて流行しました。

感染性胃腸炎は施設内で広がりやすく、特に高齢者や免疫力が低下している人にとって大きなリスクです。手洗いや消毒などの予防策を実践することは、感染の拡大を防ぎ、皆さんの健康を守る上で非常に重要です。予防策の具体例を4つお伝えします。

<こまめな手洗い>

外出先から帰ってきた時、食事の前後、トイレの使用後、調理の前後には、しっかりと手を洗いましょう。菌やウイルスは目には見えません。汚れがなくても手を洗うことが大切です。

<定期的な消毒>

共有スペースや頻繁に触れる場所を定期的に消毒することで、病原体の拡散を防ぎます。ノロウイルスなどはアルコールよりも、**次亜塩素酸ナトリウムでの消毒が有効です。**

<健康状態のチェック>

入居者や職員健康状態をこまめにチェックし、体調不良の際は早めに対応しましょう。また、体調不良の際はすぐに周囲に報告できる体制づくりも重要です。

<施設内での研修>

施設内での定期的な研修や、情報提供を通じて、感染性胃腸炎に関する知識や予防策を理解し、正しい対応ができるようにしましょう。感染症発生時（特におう吐時など）に落ち着いて対応ができるように日頃から準備しておきましょう。

おう吐物の処理方法や消毒方法については以下を参考にしてください。

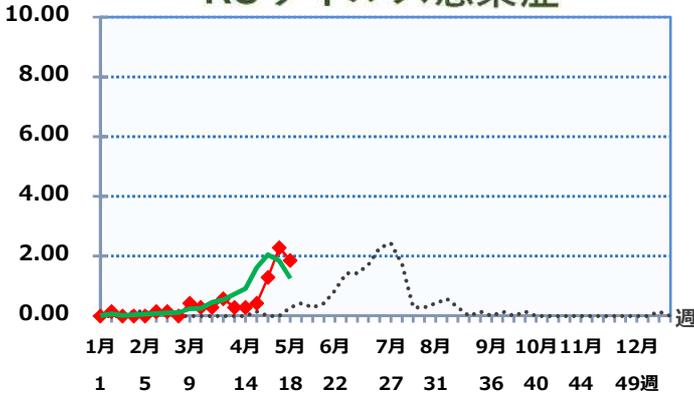
<https://www.city.kita.tokyo.jp/hokenyobo/outoburtsusuyori.html>

定点把握対象疾患

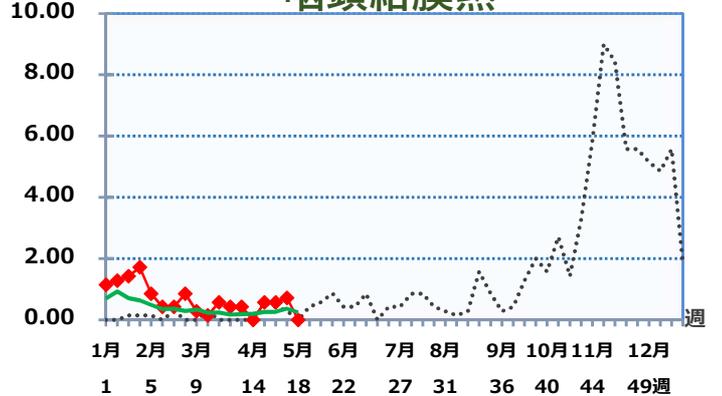
定点医療機関当たり患者報告数
(定点医療機関からの患者報告数÷定点医療機関数)

- 2023北区
- ◆ 2024北区
- 2024東京都

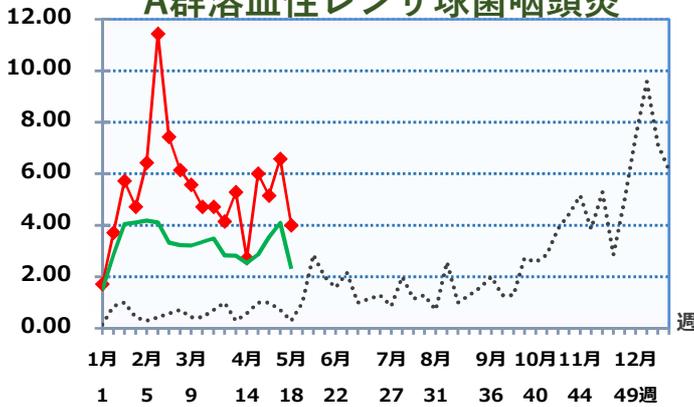
RSウイルス感染症



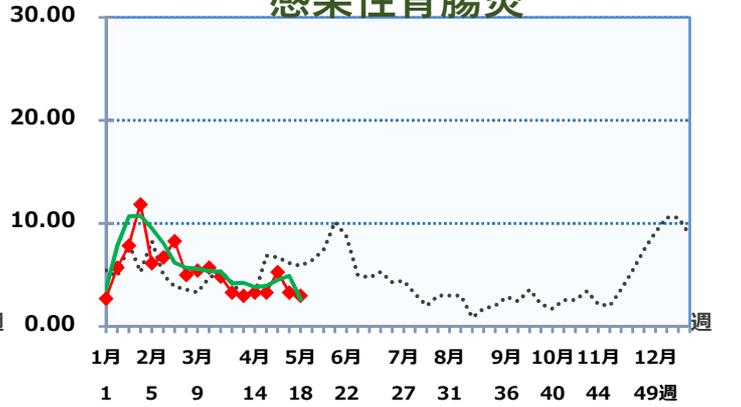
咽頭結膜熱



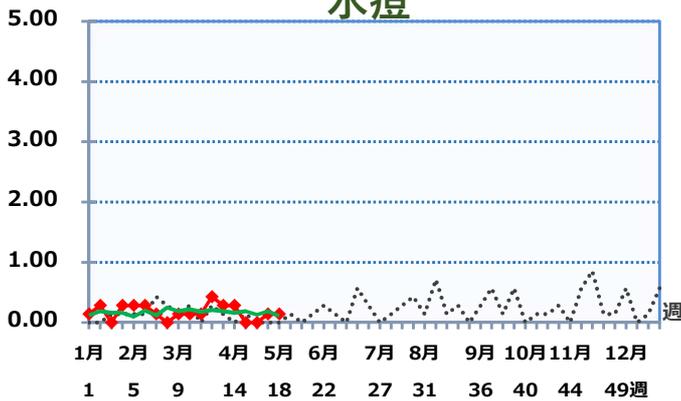
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



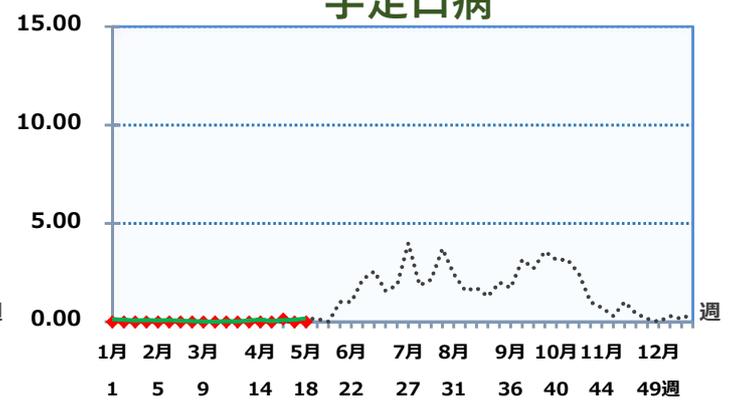
感染性胃腸炎



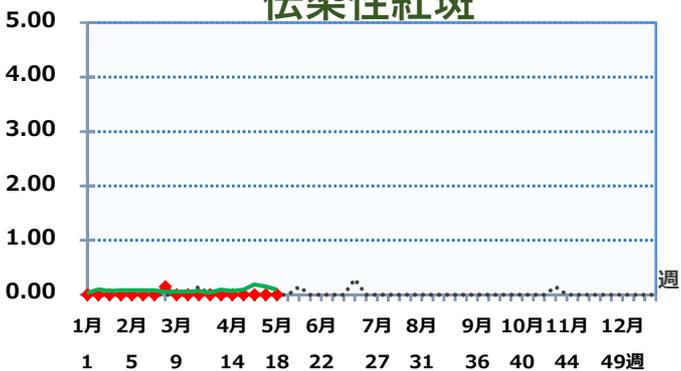
水痘



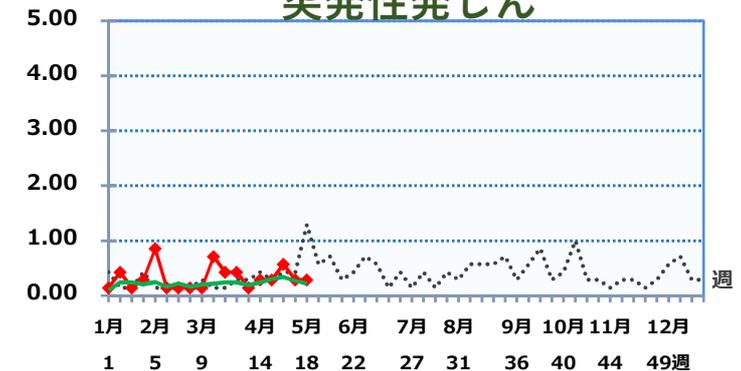
手足口病



伝染性紅斑



突発性発しん

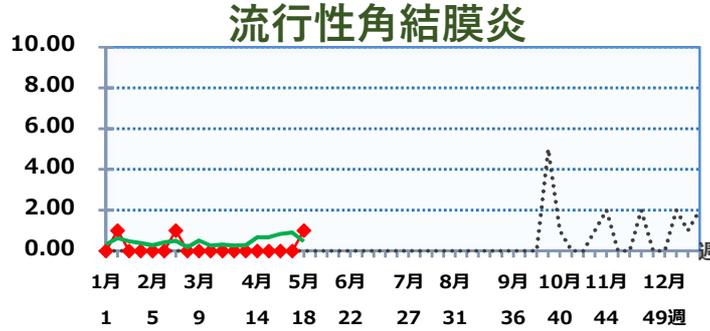
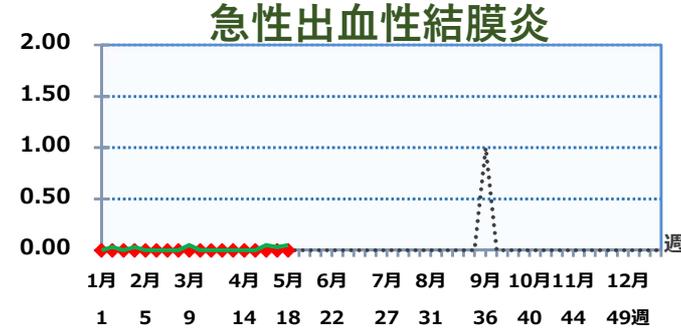
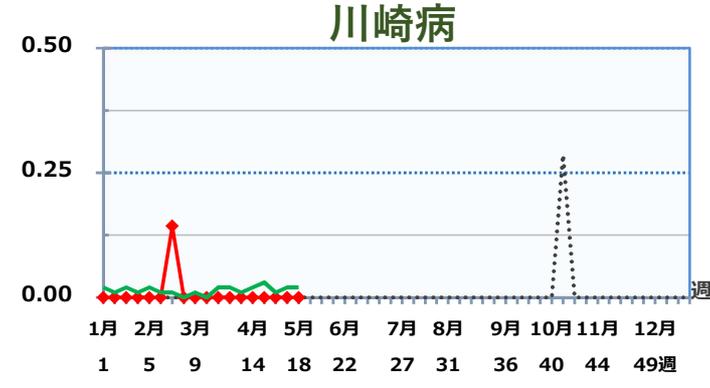
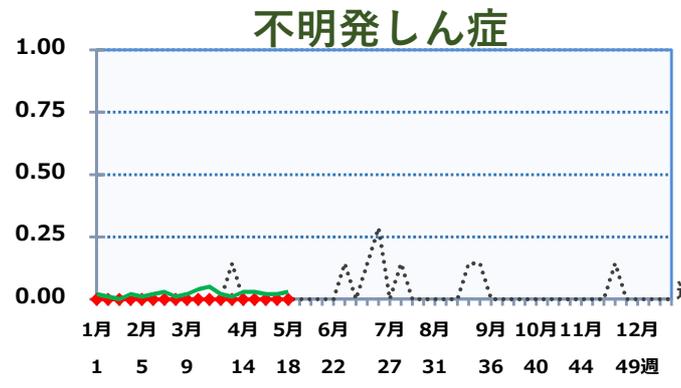
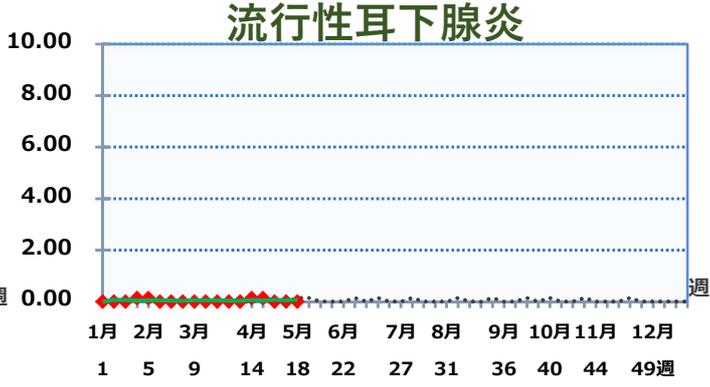
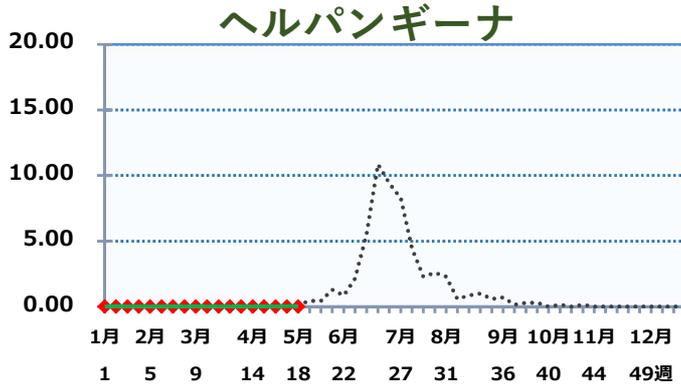




定点把握対象疾患

定点医療機関当たり患者報告数
(定点医療機関からの患者報告数÷定点医療機関数)

- 2023北区
- ◆ 2024北区
- 2024東京都



性感染症 (2024年3月分まで) ※梅毒は「全数報告対象疾患」に掲載しています。

2024年4月分は2024年第19週号にて掲載予定です。

